

学校でできる防災の取り組み②

今回は高等学校・幼稚園・保育園・特別支援学校での防災の取り組みを紹介いたします。

宿泊防災訓練を行おう

東京都では、すべての都立高校（定時制・通信制課程を除く）で、一泊二日の宿泊防災訓練を実施しています。災害発生時、自分の命を守り、身近な人を助け、さらに避難所の運営など地域に貢献できる人間を育てることが目的です。

この訓練では、煙体験、消火器の取扱訓練、放水訓練、AED講習、アルファ化米の食事体験、防災学習などさまざまな体験や学習が行われています。

宿泊防災訓練の様子



教室や体育館の床の上で寝ることは、ふとんやベッドの上とは違うものだと感じるでしょう。しかし、避難生活の大変さを知ることは、防災について考えるよいきっかけになると思います。

立体模型で津波再現授業

岩手県の宮古工業高等学校の生徒たちは、自分たちが学んでいる技術を生かした取り組みを行っています。機械科「津波模型班」は、立体模型を製作し、地域のイベントでの実演や近隣の小中学校への出前授業で活躍しています。

立体模型は、街中の道路や家並みをはじめ、海底や海岸の形状、防潮堤の位置や高さなどを忠実に再現しており、疑似的に津波を発生させることができます。これによって津波がどう押し寄せ、引き波がどう動くのか、また、街の中で浸水に弱い地域がどこなのかなどが視覚的に確認できます。

生徒たちが真剣に取り組む出前授業



津波発生装置のタンク作りには、旋盤やフライス盤、CAD（コンピュータ支援設計技術）を使った自動工作機械によ

る金属加工で機械科の専門技術が生かされています。高校での取り組みに関しては、防災に関する知識や技能の習得をはじめ、地域社会への貢献など「共助」の取り組みまで考えて行われることに期待しています。

園児の避難で重要なこと

幼稚園や保育園における防災の取り組みでは、重要なことが2つあります。

①災害発生時、子どもたちが自発的に動けるよう訓練をしておくこと
避難訓練にリトミックを役立てている園があります。「リトミック」とは、音楽を使って身体を動かしながら、心と身体の発育を促す教育方法です。このリトミックを用いて、園児たちが先生や保育士の所に自発的に集まるように普段から訓練するのです。

災害が起きたときに、この動きができれば避難はよりスムーズになるので、とてもよい取り組みだと思えます。

また、子どもたちに災害に応じた基本的な避

難行動を教えるには、日本損害保険協会が制作したカードゲーム「ぼうさいダック」などの教材もおすすめです。

カードには、地震、津波、洪水、火事などのときの避難行動が、かわいい絵で描いてあります。



地震のカード。裏返すと、頭に手を当てて体をまるめて身を守るアヒルの絵が描かれている

②教職員以外に子どもたちの避難を支援する人を確保しておくこと

災害時、とくに保育園には自力で移動できない乳幼児がいるため、職員だけでは避難の対応が困難になることも予想されます。近隣の学校や企業などに、いざというとき避難を手助けしてもらおうようお願いし、合同避難訓練を実施しましょう。

高校生と幼稚園児と一緒に進む、合同避難訓練



避難支援者にとっても、子どもの扱いに慣れ

障がい者の避難を考える

特別支援学校における防災訓練では、変化に対応できない子どもも多いことから、災害時にを行うことを実際に経験させておくことが必要です。訓練で避難場所まで逃げる、非常食を食べる、災害用トイレの練習をする、避難所で寝てみるなど実施しておきましょう。



日高特別支援学校の取り組み

防災に関する一般的な方法が、適用できない場合も少なくありません。たとえば、「地震があったら机の下に入って身を守る」「津波の際は高台へ逃げる」ということも、車いすを利用している人や全盲の人には難しいこともあります。訓練では、障がいに応じた取り組みが求められます。また災害時には、「助けが来るまで待つ」という姿勢では身を守ることができません。障がい

地域との相互理解を図ろう

特別支援学校の校区はとても広く、寄宿舎で生活している生徒もいます。したがって災害時には、家族がすぐに迎えに来ることができない場合もあります。そこで大事になってくるのが、地域との連携です。

学校と地域との繋がりが薄い場合、生徒らの状況をよく知らない人も多く考えられます。生徒たちに必要な配慮について、避難所の運営を行う地域の防災組織と話し合い、相互理解を図ることが大切です。

また、学校側も避難所のトイレの環境、情報伝達方法（音声・文字でのお知らせ）など、確認しておく必要があります。



笠間正弘
一般財団法人
防災教育推進協会理事
1961年宮城県生まれ。子どもたちが自ら考え行動する真の「防災力」を育むため、「ジュニア防災検定」や「防災寺子屋」などの防災教育事業を行っている。著書『わたしたちの防災』